



新法
繪入

書
世
二
三

1953
3



1953
3

當世河仙曾我

三之卷目錄

第一 幼引おま津なにトミゆりミ花ハ二ニ夜ヨの嫁ヨメ入イ

但但事事
仲仲屋屋裏裏行行衛衛門門
湯湯鳴鳴

付、嫁よめのけがさぐる姑おばあれれふとくく親おや。
付、敵たかの敵たかももくくううのの出で家か様さまい。
ふとふと鬼おによよ衣え言ことよよととああめめののおお習なら及また

第二 大和大和ああよりより燕つばきななくく身み持もちのの對たいのの光ひかり

付、子こ持もちとと射やここひひ一いっ軒けんののねねんんののささ。
付、病やまいとと笑わらてて我われ肉にくへへ引ひ込こめめ風かぜ。
茶ちやよりより手てすすりりれれよよのの女め房ぼうののんんききい

三ノ巻

第三 樂座の喧流の端より舞の芝居

付、相もとのりか引いてゆく荒片。
娘が智恵で追手の食飲の由を給

第四 水上の洞の面守をれ母の怒り

付、カよみ紙と折人巻きと丸強のあ男。
おまね可き虎のまわりぬ男侍

第一 幼馴染より花之夜の嫁入

一切の女の性かましくまねる事。母と姑の中はまことの掃部ぞ
が。伊東の祐親が妻の國をいらして情ようそく人別をあらわし性
かまねは海の子のあやうき娘をいじりて。娘より祐春のまをて
妻あはれすゆ。さしてとてしる悲びもの果あつて。我々の事ぞ
たり。とてにゆいてかゝるがとまける事れは。ゆくと事なれり。こみて
日は申さく。縁ごと祐春をいん。ゆくとあまこ。まをてゆへ。姑のまね
ごと。うらべがうらがかりして。わらうる。まをて。ゆくと。あまね
現むの縁なれ。と。子をまをて。まをて。まをて。まをて。まをて。まをて。
まをて。まをて。まをて。まをて。まをて。まをて。まをて。まをて。まをて。まをて。
まをて。まをて。まをて。まをて。まをて。まをて。まをて。まをて。まをて。まをて。

一が清浄なまじつてつら。奉^んたはく^く一皮よつておまめのが^ふは^ふ
て姑いひ^しごのやじ^ちち^ち。ホハ月日^{げつじつ}ま^まい^い半^{はん}終^{しゆう}せ^せら^らる^る部^ぶは^は
こふ^こして^て。ぢ^ぢれ^れる^るを^をい^いま^まく^くて^てい^いま^まは^は俵^{はたけ}あり^{あり}。身の^みま^まら^らあ^あ
の^のあ^あは^は。ふ^ふの^のは^はい^いと^とい^いれ^れる^るは^は髪^{かみ}と^とあ^あら^らう^う。毛^けを^をお^おて^て。修^{しゆ}の^の身^みを^をい^い
と^とあ^あら^らう^う。髪^{かみ}は^は判^{はん}の^のと^とあ^あら^らう^う。我^{われ}は^は尼^に法^{ぼう}師^しと^とあ^あら^らう^う。身^みを^を
の^のづ^づら^らう^う。ぢ^ぢれ^れる^るを^をい^いま^まく^くて^てい^いま^まは^は俵^{はたけ}あり^{あり}。身の^みま^まら^らあ^あ
ま^まら^らう^う。髪^{かみ}は^は判^{はん}の^のと^とあ^あら^らう^う。我^{われ}は^は尼^に法^{ぼう}師^しと^とあ^あら^らう^う。身^みを^を
し^して^てこ^こら^らう^う。髪^{かみ}は^は判^{はん}の^のと^とあ^あら^らう^う。我^{われ}は^は尼^に法^{ぼう}師^しと^とあ^あら^らう^う。身^みを^を
保^{たも}て^て。子^こを^をい^いま^まく^くて^てい^いま^まは^は俵^{はたけ}あり^{あり}。身の^みま^まら^らあ^あ
産^うの^の氣^きを^をい^いま^まく^くて^てい^いま^まは^は俵^{はたけ}あり^{あり}。身の^みま^まら^らあ^あ
津^つの^のま^まを^をい^いま^まく^くて^てい^いま^まは^は俵^{はたけ}あり^{あり}。身の^みま^まら^らあ^あ
中^{ちゆう}より^{より}た^たの^のま^まを^をい^いま^まく^くて^てい^いま^まは^は俵^{はたけ}あり^{あり}。身の^みま^まら^らあ^あ

育^い。お^お家^かは^はお^お子^こを^をい^いま^まく^くて^てい^いま^まは^は俵^{はたけ}あり^{あり}。身の^みま^まら^らあ^あ
肉^{にく}を^をい^いま^まく^くて^てい^いま^まは^は俵^{はたけ}あり^{あり}。身の^みま^まら^らあ^あ
身^みも^も安^{やす}法^{ぼう}の^のお^おし^しと^とあ^あら^らう^う。我^{われ}は^は尼^に法^{ぼう}師^しと^とあ^あら^らう^う。身^みを^を
と^とあ^あら^らう^う。髪^{かみ}は^は判^{はん}の^のと^とあ^あら^らう^う。我^{われ}は^は尼^に法^{ぼう}師^しと^とあ^あら^らう^う。身^みを^を
と^とあ^あら^らう^う。髪^{かみ}は^は判^{はん}の^のと^とあ^あら^らう^う。我^{われ}は^は尼^に法^{ぼう}師^しと^とあ^あら^らう^う。身^みを^を
い^いま^まく^くて^てい^いま^まは^は俵^{はたけ}あり^{あり}。身の^みま^まら^らあ^あ
俵^{はたけ}の^のま^まを^をい^いま^まく^くて^てい^いま^まは^は俵^{はたけ}あり^{あり}。身の^みま^まら^らあ^あ
身^みの^のま^まを^をい^いま^まく^くて^てい^いま^まは^は俵^{はたけ}あり^{あり}。身の^みま^まら^らあ^あ
と^とあ^あら^らう^う。髪^{かみ}は^は判^{はん}の^のと^とあ^あら^らう^う。我^{われ}は^は尼^に法^{ぼう}師^しと^とあ^あら^らう^う。身^みを^を
と^とあ^あら^らう^う。髪^{かみ}は^は判^{はん}の^のと^とあ^あら^らう^う。我^{われ}は^は尼^に法^{ぼう}師^しと^とあ^あら^らう^う。身^みを^を
と^とあ^あら^らう^う。髪^{かみ}は^は判^{はん}の^のと^とあ^あら^らう^う。我^{われ}は^は尼^に法^{ぼう}師^しと^とあ^あら^らう^う。身^みを^を
と^とあ^あら^らう^う。髪^{かみ}は^は判^{はん}の^のと^とあ^あら^らう^う。我^{われ}は^は尼^に法^{ぼう}師^しと^とあ^あら^らう^う。身^みを^を
と^とあ^あら^らう^う。髪^{かみ}は^は判^{はん}の^のと^とあ^あら^らう^う。我^{われ}は^は尼^に法^{ぼう}師^しと^とあ^あら^らう^う。身^みを^を
と^とあ^あら^らう^う。髪^{かみ}は^は判^{はん}の^のと^とあ^あら^らう^う。我^{われ}は^は尼^に法^{ぼう}師^しと^とあ^あら^らう^う。身^みを^を
と^とあ^あら^らう^う。髪^{かみ}は^は判^{はん}の^のと^とあ^あら^らう^う。我^{われ}は^は尼^に法^{ぼう}師^しと^とあ^あら^らう^う。身^みを^を
と^とあ^あら^らう^う。髪^{かみ}は^は判^{はん}の^のと^とあ^あら^らう^う。我^{われ}は^は尼^に法^{ぼう}師^しと^とあ^あら^らう^う。身^みを^を
と^とあ^あら^らう^う。髪^{かみ}は^は判^{はん}の^のと^とあ^あら^らう^う。我^{われ}は^は尼^に法^{ぼう}師^しと^とあ^あら^らう^う。身^みを^を

三十一

四



うらめて。見身の事と大切とぞ。吾我の家とお徳を中々に
ちひいへて。この世に。祐親いす。一葉の種もまじ。め。後わ。こ。女房
禊越よ。実なす。神あへ。て。わ。も。お。の。い。お。後。今。何。の。お。後。家。
仍。美。で。と。さ。の。稀。かり。佐。の。盛。つ。縁。の。ま。へ。猶。れ。こ。や。あ。さ。う。油
改。の。あ。の。事。われ。君。さ。と。た。ぬ。う。わ。い。お。と。と。と。い。一。時。と。早。く。と。う
き。の。あ。さ。と。と。よ。の。時。は。祐。信。の。こ。男。の。う。わ。さ。う。の。後。ま。れ。他
人の。手。に。嫁。を。さ。う。ける。や。い。な。い。や。さ。ず。と。後。り。ゆ。か。る。を。く。よ。い。ら
る。は。ぞ。祐。親。と。同。じ。て。吾。目。と。い。つ。も。と。さ。ら。ん。ど。に。い。ら。ん。ど。し。り。別。か。ら
と。い。ひ。か。祐。信。と。さ。な。せ。二。世。の。し。じ。と。を。ま。れ。ら。る。お。高。と。さ。も。ま。に
と。め。て。わ。の。も。あ。り。あ。り。お。と。ね。の。じ。と。い。の。を。申。お。り。お。祐。信。と。さ。れ。ら
へ。河。津。友。助。も。り。鬼。玉。團。二。の。と。し。初。め。の。ま。と。二。人。の。あ。あ。に。あ。ず。べ。と。ま
つ。て。い。た。り。は。し。は。ま。を。親。の。相。と。ま。と。て。糸。極。子。わ。の。て。世。信。は。る

おのの事として。年々合カどうのあせ。と。河津友情も。こ。人。中。室。之。の
く。じ。と。不。後。ま。れ。が。し。せ。て。お。た。ぬ。世。よ。わ。か。て。さ。ま。べ。と。具。して。ら
れ。ま。よ。し。ち。び。と。と。そ。う。後。の。助。が。あ。ら。ま。の。う。は。い。ら。ん。ど。の。ま。り。の
お。高。と。ま。と。ま。と。と。い。の。世。信。よ。ま。く。さ。せ。や。え。ん。祐。信。の。ま。は。く。と。遊。の
事。に。一。様。情。ま。が。守。人。よ。つ。けて。見。身。に。下。れ。た。ま。よ。く。お。祐。親。も。た。る
べ。と。は。り。ける。や。い。に。ち。が。て。い。る。も。た。ぬ。に。ま。る。す。べ。と。さ。の。や。く。か。る。吾。目
と。あ。ら。み。い。し。く。ふ。る。我。へ。と。ま。ぬ。り。と。り。わ。あ。ら。り。た。又。と。い。ま。じ。い。ん
地。中。で。わ。さ。う。ご。り。い。の。の。申。つ。て。二。人。の。ま。と。と。ま。の。あ。ら。ん。ど。と。い。み
あ。く。大。事。に。ま。ご。と。い。見。身。に。お。我。の。名。を。と。名。の。祐。信。の。外。抱。て
目。に。成長。く。と。と。年。の。初。ま。の。お。ま。の。ま。ら。に。ま。ご。い。ま。い。は。は。は。は。敵。と。い
討。て。中。を。ま。せ。んと。釣。者。見。身。小。ら。お。か。あ。ん。ど。と。り。て。お。高。と。ま。と。
敵。と。わ。づ。け。て。お。高。と。づ。け。へ。ま。ね。お。自。家。の。お。ま。び。は。ら。り。たり。停。あ。り

三十三巻一册

つる事し飛玉園三。夕暮れ中より八月二十一日に於て
 たりつりとして朝のつくさむいぬ。是は兼統の勤王。又兼統が
 とりめはちつてむいんとおこされ。源氏重代のゆゑに人々を
 の列友を討てし格におこりせたまふ。大徳元年伊弉諾進軍
 了。たぐり大軍よりなり。東宮のころすうらむびけなき。八幡
 てさび久さうけし事皆首のべて降参る。中には伊弉諾の
 耐し統及ゆめし。みまう首さうらむ。伊弉諾久津原河津に
 玉と没除せられり。玉友を討つ統。統の味方になり。たぐり
 先祖の勤王事。おこす。おこす。おこす。おこす。おこす。おこす。
 とませし。大徳元年。伊弉諾。伊弉諾。伊弉諾。伊弉諾。伊弉諾。
 又おこす。おこす。おこす。おこす。おこす。おこす。おこす。おこす。
 後射よりし。おこす。おこす。おこす。おこす。おこす。おこす。おこす。おこす。

我の元先祖代より。伊弉諾。伊弉諾。伊弉諾。伊弉諾。伊弉諾。
 おこす。おこす。おこす。おこす。おこす。おこす。おこす。おこす。
 一歳と元孫を。おこす。おこす。おこす。おこす。おこす。おこす。
 亡父が遺言。おこす。おこす。おこす。おこす。おこす。おこす。
 れす。おこす。おこす。おこす。おこす。おこす。おこす。おこす。
 正月十日。おこす。おこす。おこす。おこす。おこす。おこす。
 念骨髄。おこす。おこす。おこす。おこす。おこす。おこす。
 是より。おこす。おこす。おこす。おこす。おこす。おこす。
 又立信。おこす。おこす。おこす。おこす。おこす。おこす。
 の。おこす。おこす。おこす。おこす。おこす。おこす。
 清浄の寺。おこす。おこす。おこす。おこす。おこす。おこす。
 若むおこす。おこす。おこす。おこす。おこす。おこす。

三巻 伊呂波

は虎よまゝのつらさぬいせまうて格子のあつてうろりと虎を
 じりりて海濱へけらしむれど。よきあひ男の目をまゝたゝ氣付よ水
 よとくあゝゝ肉へこころて虎が母のふ里に色を又十にちりちりまされ
 執をやめて娘の親で家へさるる。女史ぬい死でまきよび家れまゝな
 とめてとまされて。大務の男をすかへ。大黒松より道かひてまきけの
 珠殺ら味増場のせめてむりしげ。おもしろい男が国まうたと
 こころち。死ては家へむらあかいらよとあなよと逆鈴丹こよに
 あせらそそそしつた。お母がにはよ入もむらぐに氣がつき。きこあゝ
 瓜抱く下けかいと。すか虎よ執りて。氣をつく。てのめまひんかひんを
 男の弱よこあびく。執も病よ顛倒あひて。やうに人よのまか
 西でいさややちりやすまひよ。お里のけよ男よのまされ。まきよび
 くまづ肉へあつて休もてるなまゝ。けいもままよまら。きよひん

大ぶんのとんりやとめて。きこに世人よあつた。皆なをまお。いんごきよ
 海濱のやちりや。修屋武代大名家。よまあ付とさうあつた。おびんを
 さしてあつた。かされて。おまへしてさうかお茶を合せてトされ。が
 至業よ。執の生肝へしめて。自身執をかりにかあされて。生肝を
 たすい。ま執の執んおまを。つしまごい。修屋の奥で。人れまを。か
 て殺し。向たるとさ。ま。た。が。名。方。と。ま。て。お。お。お。か。切。て
 して。ちん。ま。せ。ふ。の。修。屋。色。こ。じ。り。と。か。ろ。と。こ。つ。て。何。と。く。さ。あ。れ。ま
 海濱が橋子。かまる名公一様。といひ。その母よつ。して。秘伝方へ。師。な。を。
 今の男。武乃十。あ。と。が。我。お。ん。強。く。て。ん。ん。や。と。急。病。の。こ。じ。た。お。ま。バ。
 執の生れ。より。虎。れ。肝。と。の。あ。び。ら。し。ら。し。孫。の。い。い。さ。け。て。び。れ。ひ
 か。ま。ま。ま。と。ち。ろ。と。皆。ま。ま。さ。ず。に。ま。ま。が。粹。か。り。あ。ま。ま。お。あ。を。れ。ハ
 お。ら。だ。ま。ま。ま。の。今。や。ご。さ。く。お。く。ん。な。り。て。さ。あ。よ。へ。大。ぶ。んの。血。忠。と。後。て。

せうていへ酒場のあまうしがふと満ちた徳利をけし梅とさね根の
 別處によがりあわがれ舞をとりおまけするを信じていよ今
 さらし悪事をせむ心成道おられん御定とさう師の境めいよしき
 俗とらとねが身なれどいかにわろく身持よりりあけし寺とあひ
 て毎日おん後よわさびかきお本多友の家は手冨を命が孫娘万
 事作しつらうがふてか娘をしが母有糸結友河で結念せんと万
 事ある文の齋敵とて法おの舞をすいし磨屋よ母うふとと板
 先あり悦びのたち又肉體のたれにひれ肉とて七月が万事二世一
 代の物を舞をとりめくふ初日とて徳念中のも娘男女挙る事
 斜やうずまのう舞より大ありと町中乃評判もへりすよあわらと
 か布施取取文おげめくれお習て芝居よ入つてえれたの男様友太
 の方の中とらぶるおバケ武屋くせえ物とて紅縁の極を展豹虎



乃皮はけりたるなり。糸の幕は、頗纏と強うがうし、雲の
 水引行くと風敷儀とくして、赤の糸と吹たて、れは、更り、更り、
 細の袴と、だふ、紋、種、の、こ、ぬ、白、綾、の、う、り、帯、お、粉、白、皮、と、り、
 細眉、雲、石、の、月、と、ぶ、ふ、出、に、美、々、す、唇、丹、花、と、わ、じ、と、お、
 と、ら、げ、べ、い、わ、の、て、か、あ、あ、あ、こ、り、あ、て、ま、ぐ、と、あ、り、あ、と
 冷、ド、れ、づ、ぞ、も、練、の、あ、げ、あ、り、あ、を、お、の、あ、ゆ、や、づ、妹、の、後、
 と、せ、川、の、巻、菊、と、ど、も、は、の、二、枚、着、板、の、若、ぬ、と、も、相、ま、と、り、へ、味、れ、
 穀、百、の、名、物、威、た、へ、て、や、も、や、も、と、感、考、席、に、餘、り、あ、り、
 ち、づ、ま、り、と、や、ず、が、ら、り、り、と、中、に、大、作、は、あ、り、依、原、の、十、多、氣
 と、て、鳴、物、の、役、者、和、お、村、也、と、り、と、後、吹、の、美、見、人、と、あ、り、と、り、
 と、り、何、う、か、て、聊、く、ん、ん、か、ぬ、と、ふ、を、酒、と、せ、お、あ、つ、の、り、と、
 兼、お、あ、せ、切、付、と、も、身、も、自、言、は、と、と、あ、れ、に、あ、り、と、り、中、

れど、あ、り、と、り、と、り、と、り、と、り、と、り、と、り、と、り、と、り、と、り、
 で、我、さ、に、お、ん、と、も、た、は、せ、お、あ、り、や、い、と、あ、り、と、り、と、り、
 後、ま、へ、と、切、や、あ、り、と、り、と、り、と、り、と、り、と、り、と、り、
 へ、推、ま、と、り、と、り、と、り、と、り、と、り、と、り、と、り、と、り、
 後、の、家、来、山、向、の、七、命、と、り、と、り、と、り、と、り、と、り、と、り、
 つ、と、り、と、り、と、り、と、り、と、り、と、り、と、り、と、り、と、り、
 と、り、と、り、と、り、と、り、と、り、と、り、と、り、と、り、と、り、
 が、あ、り、と、り、と、り、と、り、と、り、と、り、と、り、と、り、と、り、
 侍、た、と、り、と、り、と、り、と、り、と、り、と、り、と、り、と、り、
 と、り、と、り、と、り、と、り、と、り、と、り、と、り、と、り、と、り、
 く、進、け、た、れ、と、り、と、り、と、り、と、り、と、り、と、り、と、り、
 い、と、り、と、り、と、り、と、り、と、り、と、り、と、り、と、り、と、り、

うらしたまの世方またのむじりごとくさうさうとかくやまのむね
 形のやうけつがびりあちして東の海より雲のしほにむじり
 糸とて捨てまかきも糸履とまじりわらひもまじりまじりわら
 わりといふはむお後おがむと重なりより逆ひぬる後娘はま
 あり細わりげは後とあらむ時追まれ名走つまじり家あつて死入
 りまらせばまゝかぬぬは長櫃よりせしむるまじりかきつち
 うけは娘とらむとさうぐぬえあつていふ事ぞ我はあらず人の家
 しくりかりの舞も一人もあらずとけしむる長刀あつて切て
 かりおとあまよつとすくしれ縁のうららよまゝのうへくあつたり
 てとわく食後とらむ二親あむお名物よあつたりあつて後流り
 てやこぬとまてなよりつとむし神とてまて娘よすけり始とまてけ
 女はく親に追まらむとけしむる今今とわむ事あつて代の時

仔細の事内なつて用は神系もまをと名をまてりや平家
 ねは神人へ今くわさきと後娘とむと娘りの内はよ入てお
 かり振舞をゆへりとの世にむ世の授をむくまのあつてと急
 り刀はまてらむと我はまをたつが家系たつて振舞をまて家へ付
 こしにわの娘もあつて入てくまをまてけりおとあつては娘
 ねあまがあつて入てこのあつては娘もまてけりおとあつては
 さうあつてはつてさうとさうあつては娘もまてけりおとあつては
 人の内はまてらむとまてらむとまてらむと一人も入てまてらむと
 寝てあつてはつてはつてはつてはつてはつてはつてはつてはつて
 ねりへおあつてはつてはつてはつてはつてはつてはつてはつて
 ね紙合おわたり是れは流るるを敷ひつてはつてはつてはつてはつて
 ともはつてはつてはつてはつてはつてはつてはつてはつてはつて



